



平成15年11月20日

各 位

会社名 楽 天 株 式 会 社
 代表者名 代表取締役会長兼社長 三木谷 浩史
 (登録銘柄・コード4755)
 問合せ先
 常 務 取 締 役 山 田 善 久
 電 話 0 3 - 4 5 2 3 - 8 0 0 1

D L J ディレクト S F G 証券(株)の子会社化に関するお知らせ

当社は、平成15年11月20日開催の当社取締役会において、ディーエルジェイディレクト・エスエフジー証券株式会社の株式を取得し子会社とすることに関し、下記のとおり決議いたしましたので、お知らせいたします。

記

1. 子会社となる会社の概要

商 号	ディーエルジェイディレクト・エスエフジー証券株式会社
所 在 地	東京都千代田区神田神保町1丁目105番地
代 表 者 の 氏 名	代表取締役会長 ローズマリー・マックファデン 代表取締役副会長兼社長 國重 惇史
設 立 年 月 日	平成11年3月24日
事 業 の 内 容	オンライン専門証券会社(オンライン証券取引サービス『D L J ディレクト S F G』の運営)
決 算 期	3月31日
従 業 員 数	112名(平成15年9月30日現在)
資 本 の 額	3,000,000千円(平成15年9月30日現在)
営 業 収 益	6,014,914千円(平成15年3月期実績)
営 業 利 益	73,623千円(平成15年3月期実績)
経 常 利 益	20,178千円(平成15年3月期実績)
当 期 純 利 益	297,238千円(平成15年3月期実績)

2. 異動の前後における当社の所有に係る子会社の議決権の数及び議決権の総数に対する割合

	(異動前)	(異動後)
当 社 所 有 議 決 権 数	0個	58,000個
(当 社 所 有 株 式 数	0株	58,000株)
議 決 権 の 総 数	60,000個	60,000個
(発 行 済 株 式 数	60,000株	60,000株)
議 決 権 の 総 数 に 対 す る 割 合	0%	96.67%
(発 行 済 株 式 数 に 対 す る 割 合	0%	96.67%)

3. 異動の内容及びその年月日

内 容	CSFBdirect Asia Holdings, Inc.より30,000株(発行済株式総数の50.00%)、株式会社三井住友銀行より10,750株(同17.92%)、株式会社インターネットイニシアティブ、住友商事株式会社、住友生命保険相互会社より各3,750株(同6.25%、小計18.75%)、三井住友海上保険株式会社、住友信託銀行株式会社より各3,000株(同5.00%、小計10.00%)、合計58,000株(同96.67%)を取得する予定であります。
異動年月日	平成15年11月26日株券譲受

4. 譲受金額

株式譲受金額	30,111百万円
劣後特約付借入金引受額	3,000百万円

なお、譲受資金については、公募調達資金をもって充当する方針であります。

5. 異動の目的

日本証券業協会の調査によると、平成15年度上半期(4~9月)の個人投資家による株式取引のうちオンライン経由が占める比率は推定で71%に至る等、オンライン証券取引は代表的なインターネット・サービスの1つとして定着しております。(出所:日本経済新聞 平成15年11月1日)

ディーエルジェイディレクト・エスエフジー証券株式会社は、平成11年3月の設立以来順調に業容を拡大し、平成15年9月末現在で国内第3位の口座数を有するオンライン専門証券会社に成長しております。なお、口座数は146,920口座(前年同月比11%増)、預り資産残高は485,831百万円(同30%増)、一日あたり平均売買代金は63,851百万円(同282%増)に達しております。

また、同社の収益構造上の特徴としましては、同社が運営するオンライン証券取引サービス『DLJディレクトSFG』にて提供しておりますリアルタイム証券取引ツール『マーケットスピード』が、売買頻度の高いアクティブな投資家層からの支持を受けており、業界の中でも、取扱口座数と比較して売買代金大きい傾向を有しております。

今後の同社の成長戦略においては、これまで培った同社のブランドイメージを維持しつつ、のべ会員数約2,000万人を抱える当社グループの各種インターネット・サービス(『楽天市場』、『infoseek』、『旅の窓口』など)との連携強化による新規ユーザー獲得、既存ユーザーの囲い込み強化を進めるとともに、新たな金融商品・サービスの投入を行い、アクティブトレーダーから初心者まで広範なユーザー層をカバーする国内No.1のオンライン専門証券会社への発展を目指します。

当社グループとしても、これまで拡充を進めてきたインターネットを利用したサービスに新たにオンライン証券取引という有力な金融サービスを加えることによるグループ全体の業容拡大と事業基盤拡充が期待されることから、同社の子会社化を決定いたしました。

6. 今後の業績に与える影響

当社では、インターネット業界の歴史が浅いこと及び環境の変化が激しいことなどの理由により、従前より業績見通しを発表しておりません。

「5. 異動の目的」にて記載しましたとおり、ディーエルジェイディレクト・エスエフジー証券株式会社の業容は順調に拡大しております。今後は当社グループ各社とのシナジーを通じた対象ユーザー層の拡大を図り、これによる収益機会の拡大を見込んでおります。

なお、平成15年12月期の当社連結業績への影響については、平成15年12月末日をみなし取得日として同社の連結を開始することに伴い、約26,000百万円の連結調整勘定償却額(特別損失)の計上を見込んでおります。

また、平成16年1月1日より同社の損益計算書項目の連結を開始するため、売上高、営業利益及び経常利益などの業績指標について相当額の影響があると考えております。